

【真田昌幸と武田信玄】

平成3年碁老連囲碁大会では、「参加申し込み者は135名に過ぎなかった」とあります。当初は150名から160名を期待していたようです。今の八碁連の大会の参加者数からすればたいしたものです。「碁老連顧問会」とか「碁老連研修会」も開かれていました。特に、研修会は技術指導員の資質と力量を高めるのが趣旨だったようです。

-----【真田昌幸】-----

戦国武将は好んで囲碁を嗜んでいたことが記録されています。戦に備えて碁を打ち、英気を養い作戦を考えていたに違いありません。真田昌幸のその一人です。NHK大河ドラマ「真田丸」では昌幸の息子、信繁(幸村)が主人公でした。この二人の囲碁対局のシーンがよく登場したのは記憶に新しいところです。

真田昌幸は、「第一級の武将」「理性に富んだ武将」と讃えられることが多く、戦では「勝つ戦略よりも負けない戦略」を信条としたと伝えられています。策略に長けていたともいわれます。昌幸は、元々は武田信玄の側仕えである近習の一人です。昌幸には信繁の他に信之という息子がいました。関ヶ原での合戦が近くなると、東軍につくか西軍につくかを選ぶ時、真田の家を絶やさぬため、信之には徳川方、信繁には豊臣方につくようにさせたという逸話があります。犬伏の地で行われたので「犬伏の別れ」といわれています。



昌幸を「わが眼の如し」と信頼していた武田信玄の囲碁好きは、「甲陽軍艦」という軍記に記されています。同様に昌幸も大の囲碁好きです。かなりの実力者だったようです。息子の信之と対局した棋譜も残っています。これが本物の棋譜かどうかは分かりません。

(2021年10月14日 大和田囲碁同好会 成田 滋)